



飯塚市消防団本部隊 女性分隊の活動

福岡県飯塚市消防団本部隊 女性分隊

1 飯塚市・飯塚市消防団について

飯塚市は平成の大合併に伴い、平成18年3月26日に近隣の1市4町(飯塚市・穂波町・筑穂町・庄内町・穎田町)が合併を行い誕生しました。

消防団は市町合併に伴い、5市町消防団がひとつとなるかたちで、新しく飯塚市消防団が誕生しました。現在の飯塚市消防団は、尾籠勝宣団長以下、約1,130名の団員が活動しています。放水中継訓練や水防訓練等を行い、あらゆる災害から市民の安全・安心を守るため、日夜活動しています。

特に、平成20年4月21日発生した本町商店街の大火災では、焼損面積4,086.3㎡、被害家屋 全焼9棟29軒、半焼1棟4軒、部分焼・ぼや3棟7軒という危機的な状況でしたが、消防車両33台、消防団員約440名が出動し、5時間以上に及ぶ懸命な消火活動の結果、奇跡的にも死者・負傷者なしでした。

2 飯塚市消防団本部隊女性分隊の誕生とその活動について

また、飯塚市は平成15年7月19日に観測史上最高の1時間に80ミリの猛烈な雨を記録し、市内は冠水し床上・床下浸水が2,000軒以上、土砂崩れは数知れず、国道は1mを超える冠水といった甚大な被害を受けました。直後から消防団員は出動し、取り残された住民の救出や、被害を受けた建物地下空間からの排水、被災家

屋からのごみの搬出、土砂崩れ現場の復旧等、数え切れないほどの任務にあたりました。

そのなかで、消防団活動の後方支援、避難所等の受入体制や被災者支援に課題を抱えていました。また、全国的に女性団員の活躍が取り扱われるようになってくるなどの状況を踏まえて、平成22年10月30日に結成式を行い、女性分隊が発足しました。発足当時は、16名の女性団員でしたが、約4年半を経た現在では、総勢35名の女性団員が入団しています。ちなみに、団員のなかには平成15年7月の水害を経験し、少しでも地域の力になりたいと入団した方もいます。

女性分隊の活動ですが、訓練礼式をはじめ、軽可搬ポンプによる放水訓練、AED使用訓練や市防災訓練における避難誘導訓練など様々な訓練を実施しています。また、昨年12月に福岡嘉穂農業協同組合から寄贈された消防広報自動車を使用した夜警を行うなど、地域住民に対する啓発活動も行っています。



避難誘導訓練の様子

そして、訓練だけでなく年間を通して月例会議を行い、会議以降の行事内容の確認や女性分隊の活動方針などを話し合っています。会議では、今年9月に行われる第2回福岡県女性消防操法大会への出場が決まるなど、非常に大事な場となっています。

3 第19回防災まちづくり大賞の受賞について

女性分隊では災害時における消防団への後方支援や被災者支援に対する研修を行っています。

平成15年の大水害や平成20年の大火を経験したが、実際の災害現場では、市民が、何が原因で被災され、どのような被災状況になっているのか、私たち自身がある程度、事前に理解していなければ、支援活動を行う方法さえわかりません。

そこで、飯塚市における災害特性や気象情報の収集方法を研修し、福岡県が実施するスキルアップ研修などに参加し、自主防災組織に対する防災図上訓練の指導方法などを学んでいます。



図上訓練の様子

平成26年1月から3月にかけて、福岡県共催による「自主防災組織設立促進モデル事業」の一環として、女性分隊と若菜

地区まちづくり協議会による地域防災ワークショップ(3回)とまち歩きを実施しました。ワークショップでは、事業説明会及び防災研修に始まり、実際に災害図上訓練を行い、グループワークや発表を通じて地域の特徴と災害が起きた時にどのような対応をとるかを学びました。最後には災害図上訓練で得た内容や図面を使用して、実際にまちを歩いて、危険箇所や避難所を確認するとともに、これまでのワークショップを踏まえて、今後の自主防災組織の在り方や活動内容について協議しました。

それだけでなく、福岡県との共催による「特色ある自主防災組織育成強化事業」として、女性分隊、枝国保育所や若菜地区まちづくり協議会により、飯塚市内に大地震が発生したことに伴い、徒歩による園児(0歳児～年長組 100名程度)の一斉避難における園児誘導、危険箇所の通報及び体調不良者への介抱・介護等の訓練を行いました。訓練終了後は、参加団体による訓練所見を行い、これまでの団活動等を含め、今後の活動に繋がる意見交換をしました。

これらの活動が評価され、第19回防災まちづくり大賞において「日本防火・防災協会会長賞」をいただきました。

最後に、女性団員の活動は年々、盛り上がりを見せており、全国の女性団員の活動を拝見・拝聴する機会が増えてきました。私たち飯塚市消防団本部隊女性分隊も飯塚市の安全・安心を守るとともに全国の皆様にその活躍が届けられるよう、さらに頑張りたいと思います。